

令和2年度 第2回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和3年3月10日（水） 13時25分開会

場 所：庄原市役所本庁5階 第2委員会室

出席者：【構成員】

木山耕三市長 牧原明人教育長 末信丈夫教育委員
横山和明教育委員 神本久美教育委員 立花有佐教育委員

【事務局】

花田譲二企画振興部長 片山祐子教育部長
東健治企画振興部企画課長 荘川隆則教育部教育総務課長
東直美教育部教育指導課長 今西隆行教育部生涯学習課長
ほか担当職員（3名）

【議事進行】

木山耕三市長

欠席者：なし

傍聴人：2名

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 議題

（1）第2期庄原市教育振興基本計画及び庄原市教育大綱の策定について

配布資料1に基づき、第2期庄原市教育振興基本計画（案）（以下「計画」）の概要及び庄原市教育大綱（以下「大綱」）について事務局より説明を行った。

●意見交換

（末信委員）

計画の最後のページに掲載されている写真（生徒がジャンプしている後ろ姿の写真）には解説文や説明等が付いていないが、これはこういった写真なのか。

（教育長）

この写真は「未来へ向けてジャンプ」しているイメージの写真という選んだもの。解説文等が必要かどうかについては検討する。

（末信委員）

これはどこで撮影された写真なのか。

（教育長）

詳細な場所は今分からない。おそらく修学旅行の時ではないかと思うが、確認してみる。

(2) 令和3年度 庄原いちばんづくり・重点事業について

配布資料2に基づき、令和3年度の庄原いちばんづくり・重点事業の概要について事務局より説明を行った。

●意見交換

(横山委員)

「22世紀の庄原の森林づくり」の森林体験交流施設では、市外や都市部の方が体験プログラム等を利用することはできるのか。

(事務局)

対象は市内に限定していないので、市外の方にも利用いただくことは可能である。広島県内の小中学校で実施されている「山・海・島」体験活動等で利用していただけるようなプログラムを整備していければと考えている。

(横山委員)

ぜひそうしていただきたい。

(教育長)

これまでそれぞれの地域で森林体験は実施されていたが、この事業により一体的なものにできる。また、体験を通じて子どもたちにも森林に関心を持ってもらい、人材育成につながれば良いと考えている。先日も校長会で市の担当者から希望があれば新年度から体験を受け付ける旨の説明があり、学校でも活用してもらいたい。

(神本委員)

以前西城自治振興センターで林野庁の方を招いて、小中学生対象の森林体験を実施したが、自然に囲まれた地域であるにも関わらず、杉とヒノキの葉が分からない子どもが多かったので、森林について学習できるこうしたプログラムは非常に良いことだと思う。

(市長)

森林体験を通じて、子どもたちに儲かる林業というものを見てもらい、最終的にはそれに関わる人材を育てていきたい。そして、森林体験で子どもたちに庄原市へ来てもらい、次は保護者がプライベートでキャンプ場や古民家などを使って庄原市を訪れてもらう仕組みにつなげたい。今回は比和地域だが、同じような体験施設がほかの地域にも展開していければ、それぞれの地域での魅力づくりにつながると思う。また、庄原市で大々的に酪農をやってみようという企業があり、酪農だけでなくチーズなどの商品づくりや自然の中で子どもたちが遊べるような環境が作れないか協議している。

(横山委員)

「キッズニア」(子ども向けの職業・社会体験施設)の職業体験などは大変な人気がある。

(立花委員)

森林体験施設の冬場の利用方法についても検討されてはどうか。

(市長)

最近では雪中キャンプなど冬の体験も人気があるので、高野町などの雪深い地域でそうした体験をしてもらえればきっと気に入ってもらえると思う。雪を逆手に取るやり方もあるので、今後は様々な方法を考えていきたい。

(市長)

庄原市民会館の整備については教育委員の皆様には示されているのか。

(事務局)

教育委員会議において説明している。

(市長)

市民会館整備では内装材として高野町の木材(ヒノキ)を使用することとしている。(株)ウッドワンがそれに興味を示しており、比和小学校では市内の業者に木材を加工してもらい、イスや机などが試作されている。(株)ウッドワンからは、安定的に木材を供給できるならば活用方法について研究してみたいとの申し出があった。

4. その他意見交換

(立花委員)

読書活動などで田園文化センターを利用させてもらっているが、施設が狭くなってきて蔵書や活動のためのスペースがなく、一般の利用者がくつろげるスペースもない。図書の充実も大事だが、市民がくつろげる場所としての図書館も必要と思うので、市民やボランティアなど利用者の意見も反映して図書館の充実につなげてもらいたい。

もう一つはGIGAスクールやICTについて、充実していただけることはありがたいと思うが、やはりバランスが必要で、紙媒体の本も大事だと思う。今年の11月にポプラ社の「総合百科事典ポプラディア」が10年ぶりに改訂されるが、今度はより軽く、より使用しやすく、パソコンやタブレット端末ともうまく連携できるものとなっている。先日参加した学校司書の打ち合わせでも、そういったものが必要であるとの意見が出た。予算が必要なことなので、何年かかけてでもGIGAスクールに適した紙媒体の活用も必要であると思う。

(事務局)

田園文化センターは後期実施計画において改修が予定されている。立花委員がご指摘のように、閲覧室や書架が狭い、小さいお子さんと保護者が一緒に本を親しむためのスペースが少ないなどの意見をいただいております。市としても課題であると感じている。行政だけでなく、利用される方や図書に造詣のある委員など、様々なご意見を頂戴して計画を立てていきたい。

(市長)

田園文化センターの土地は借地であるので、移転地について検討する場合は、移転先の候補を挙げてから議論した方が良い。先ほどからご指摘のように図書やスペースを充実させる必要もある。庄原市の中に様々な施設があるが、それらを根本的に見直すことも検討している。

また、ICTについては、今後はもっと活用していく方向に進まざるを得ないと思うが、子どもたちにただタブレット端末を与えてそれだけで勉強や読書というのはあまりにも無機質なもので、立花委員ご指摘のとおり紙媒体も大事であると思う。

(神本委員)

教育振興基本計画の理念などを読んでみて、改めて庄原の教育の魅力は何かということを考えてみた。昨年に西城中学校の2年生が総合的な学習の授業で地域の魅力発信で弁当販売を行った際、最初は子どもたちも地域の魅力について「自然」「ヒバゴン」など「モノ」に視点が向いていたが、弁当販売を通じて色々な地域の方と触れ合う中で、最終的に「人の優しさ」ということに気付いたということで、保護者の一人としてすごく良い学びであったと感じる。都市部ではできない庄原の教育の魅力の一つと感じた。当日は時間がなく子どもたちの中にはお弁当が食べられない子がいたが、JA 女性部の方が後日メッセージ付きのお弁当を届けてくださり、子どもたちもすごく喜んでいて、子どもたちの心にも、大人が応援してくれているということが伝わり、社会に出ていくための力を与えてもらったのではないかな。大きな活動でないにしても、色々なところで子どもたちの教育を地域の方が支えてくれているのだということを感じた。

(横山委員)

大半の子どもたちが卒業後に市外へ出て行ってしまいう中で、庄原にいるときに地域の魅力について学んでおこうという取り組みがされており、例えば東城町の場合は以前から中学校・高校で東城の魅力について学習している。ただ、それだと市内の他の地域のことは十分に分からず、もっと一体的に地域の魅力を学ぶ取り組みが必要であると思う。自分たちの地域の魅力を知っておくことももちろん重要だが、庄原全体の魅力を語る子どもを育てていかなければならないと思う。

また、いちばんづくり・重点事業の中で庄原小学校の子育て支援施設の改築が挙げられているが、東城町では元保育所などを放課後児童クラブとして利用しており、建物も30年が経過して老朽化しているが、今後は地域ごとの整備や改築の計画はあるのか。

(事務局)

今回挙げたのは令和3年度事業であるが、庄原小学校の子育て支援施設以外にも老朽化が進んでいる建物、あるいは耐震化がされていない建物もあるため、東城町も含めて計画的に整備や改修を進めていきたいと考えている。

(市長)

子育て支援施設等については、市内全ての施設を改修する考えである。また、先ほど地域の魅力が「人」であるとの意見があったが、子どもたちに本当に何を教えるべきかということが重要である。学力も大事だが、生きる力を育てることも重要であるし、時には地域だけでなく「大海」を見て学ぶこともあるだろう。そうした人材を育成するために何が必要かということは、これまでもずっと議論している。子どもは大きくなるにしたがって自然に力を付けていくものだが、その時代に見合った刺激や教育の題材を子どもに与えるべきだと考える。

(末信委員)

庄原市にも美術館がほしいという声をよく聞く。予算のかかることではあるがぜひ検討いただきたい。

(教育長)

美術館については、必要という声はこれまでもあったが、予算や人員の課題があり、困難な状況である。地域の文化芸術の発信としては、それぞれの地域に美術に長けた方がおられるので、これまで市・町美展などでそういった方々の発表の場を確保したり、市役所ロビー等に子どもたちの作品を展示するなどの取り組みは実施してきた。

(市長)

どこかで起爆剤というか、美術館について一度議論しても良いのではないか。

(教育長)

「ふるさと庄原の学びや体験を基盤とした力が、どこにいてもどのような状況にあっても心の支えとなり原動力となるような教育の創造」そのものが庄原の魅力であると思う。市全体で共通する良さと各地域で特色ある良さがあり、市全体では「自然環境」「お互い様という地域のつながり」「子どもの素直さ・一生懸命さ」、そして例えば本市独自のものでは「読書の推進」「科学研究の力」「表現力（書く力）」がある。そうした中で最終的に共通した目的は、子どもたちが進路を実現する力を付けるということ。それを一体的にできないかということで、教育フォーラムや合唱コンクールを実施してきた。その結果が、一度子どもたちが市外へ出ても、やがて庄原に帰ってくるということにつながっていると思う。「将来庄原へ帰ってきたい又は住んでみたい」と回答した中学生は合併当時20数%だったが、10年後には40%、今年は57%程度になっており、本市の教育の取り組みの成果は着実に出ていると思う。ここ5～6年の本市における進路未決定者はゼロ。これは他の自治体でもほとんど例のないことだ。子どもたちには自分の目指すものを実現させてほしい、そういった願いを教育振興基本計画にも込めている。

(市長)

かつては都会へ出るという志向だったが、近年は帰郷の意識が高まっている。また、新型コロナウイルスの影響があるのかもしれないが、古民家や田舎暮らしなどが注目されている。そうした中でふるさとへ帰ってもらい、あるいは庄原へ移り住んでもらおうという取り組みや努力を丁寧に進めていけば、たとえ人口が減っていくとしても緩やかさは保てるのではないかと考えている。

(教育長)

地元に残ろうという子どもにどのような力を付けてもらうかを考える必要がある。たとえ庄原に帰れなくても何らかの形でふるさとへ貢献する人材を育てなければいけないと考えている。学校や地域が一体となった取り組みが、少しずつ前に進んでいると感じている。

5. 閉 会 14時50分